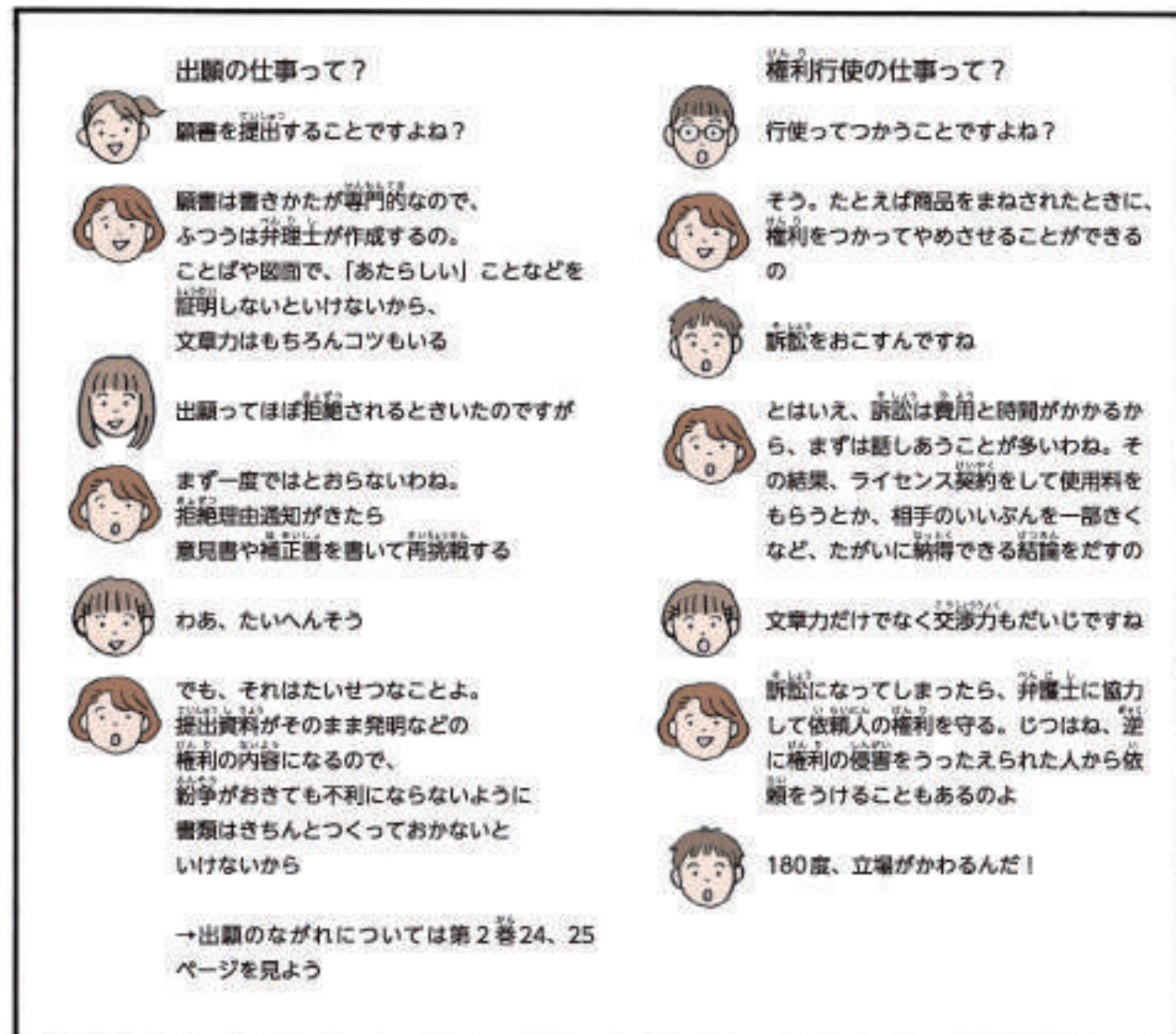




事例2 研究開発をすすめるために特許権争いに勝つ

特許権 京都大学（山中伸弥教授）のiPS細胞

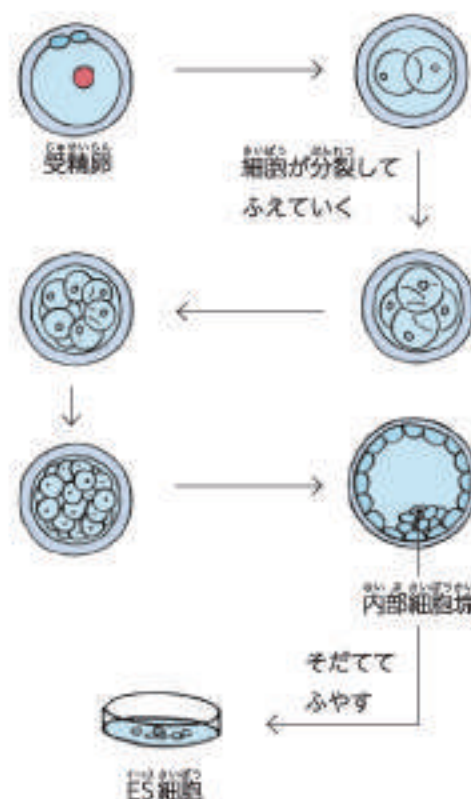
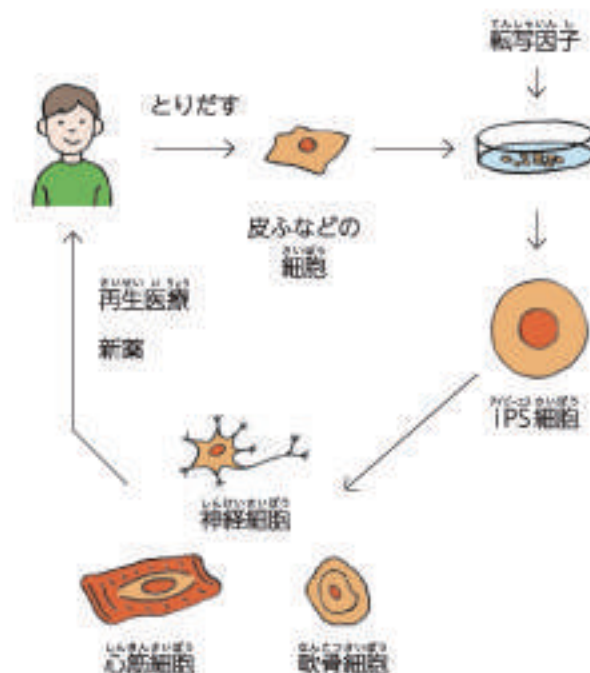
iPS細胞とは？

はじまりはES細胞

人が生まれるためには、受精により男女がそれぞれもっている精子と卵子という細胞の核が合体する必要がある。こうしてできたひとつの核をもつ受精卵は、ふたつの細胞にわかれ、それがまたふたつずつにわかれ、というふうにして数をふやしていく。やがて内部細胞塊という塊のついたかたまりができる。この内部細胞塊の細胞はこのあと、体のさまざまな部分の細胞に分化していく。つまり、内部細胞塊は人間の体のすべての細胞になることができる細胞のかたまりだ。ここからとった細胞をそだてたものを胚性幹細胞（ES細胞）という。

ES細胞への期待と問題点

人の体のすべての細胞に分化することができるES細胞には、病気やけがでだめになってしまった心臓、神経、骨の細胞などをつくるというつかい道が期待された。これを再生医療という。けれども、ES細胞は、不妊治療で使われず、あまった受精卵をもちいるものの、ひとりの人間になる可能性をもった細胞を破壊してつくられる。これに抵抗感をもつ人も少なくなく、この研究をみとめない国もある。また、ほかの人の細胞からできた臓器の細胞では臓器移植に見られるような、拒絶反応がおきる可能性もある。



人の皮ふから幹細胞をつくる

2007年、京都大学再生医科学研究所の山中伸弥教授が、人間の皮ふから幹細胞であるiPS細胞をつくったことを論文で発表した。ES細胞とちがいiPS細胞は、分化してしまった細胞を転写因子により最初の内部細胞塊の段階までもどして幹細胞にしたものだ。これなら、命のもとを犠牲にすることがないし、本人の体の一部からつくられるので拒絶反応の心配もない。これは世界がまちのぞんでいた技術だった。2012年、山中教授はiPS細胞の研究によりノーベル賞をうけた。けれども、授与されたノーベル賞のメダルを山中教授はしまいこんでしまったという。ほんとうの目的にまだたっていないからだ。その目的とはこの技術をつかって病気の人をすくうことだ。

* 転写因子は遺伝子情報の伝達をコントロールするタンパク質

iPS細胞の特許権

きそいあう分野

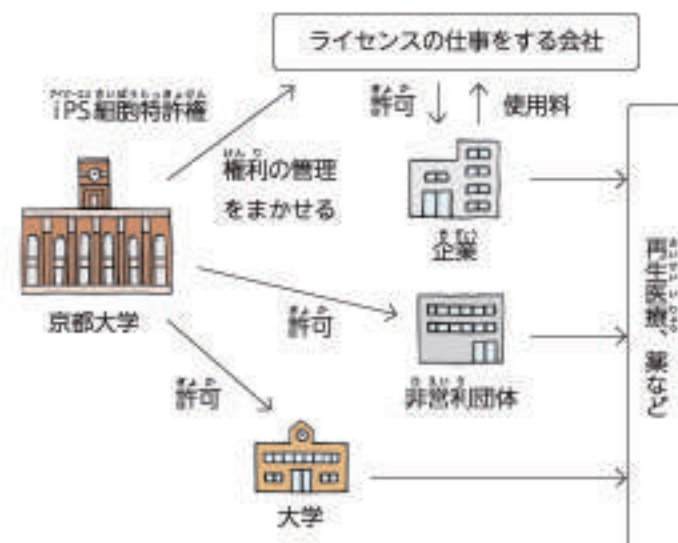
山中教授は、2007年にヒトiPS細胞の論文を世界ではじめて発表した。けれども、じつは同日に、ES細胞をつくったトムソン教授もおなじ研究の論文を発表していた。この分野はそれだけ競争がはげしいということだ。だからこそ、技術が進歩するともいえる。京都大学はこの研究のためにiPS細胞研究所をつくり、山中教授がその所長をつとめることになった。

企業の独占の害

山中教授は、特許権の競争にはどうしても勝たないといけないと考えていた。もし、自分の利益だけをもとめる企業が特許権をおさえたら、その企業の研究者以外は研究ができないか、膨大な使用料をはらって研究することになる。つまり、おおぜいできそいあう研究をすることができなくなったり、高額な費用をかけて研究することになったりする。高額の研究費がかかった治療法や薬は高額になり、裕福な人しかつかうことができなくなる。じっさいに、多くの研究が権利の独占のために歩みをおそくしているのだ。

iPS細胞がもたらすもの

京都大学が特許権をつかいやすくしたこと、で、現在、多くの大学や企業がiPS細胞を役立てるための研究をすすめている。もちろん、iPS細胞研究所でもiPS細胞にかかわる基礎研究のほかに、難病の治療法などの研究をおこなっている。難病とは原因が不明で治療がむずかしい病気である。患者が少ないため、利益をださないといけな企業では取りくみづらい。大学だからできる研究といえる。



基本的な特許をおさえる

そこで、世界の競争相手に勝ち特許権をおさえるために、研究所に知的財産の部署をもつけ、京都大学がライセンスの仕事をする会社もつくった。とくにアメリカは特許権の争いがはげしい国なので強敵といえた。じっさい、アメリカの企業がヒトiPS細胞は自分たちが先につくっていたと主張し、アメリカで争いになりかけたこともあった。このときは、なんとか話しあいで解決することができた。こうした万全のそなえが功をそうし、京都大学は世界の多くの国でiPS細胞の基本的な特許を取得することができた。京都大学は、公的機関には無料で、企業なら適切な使用料で特許の使用をみとめている。



事例7 特産物をいかして県の知名度をあげる

商標権 香川県の「うどん県」

好印象度が最下位に

香川県は、四国にある日本でいちばん面積の小さい県だ。瀬戸内海に面した自然豊かな土地で、海産物にも農産物にもめざましい。けれども、本州ではないことやその小ささからか、県名があまり知られていないのがなやみだった。1998年におこなわれたある都道府県好印象度調査では、47都道府県中47位という結果になった。これがきっかけになり、2004年から県の観光振興課によるイメージアップへの取り組みがはじまった。



みんな知っている讃岐うどん

県名は知られていないとしても、香川県には讃岐うどんという古くからの特産品があった。そのはじまりについては、空海が中国からもちかえりこの地にひろめたという説や、二毛作で小麦がよくとれ団子としてたべられていたのが、最後には長いめんになったという説など、さまざまなことがいわれている。江戸時代に金刀比羅宮秋の大祭をえがいた「金毘羅祭礼図屏風」には、3軒のうどん屋が登場している。



金刀比羅宮は海の神さま大物主神をまつた神社。いまでも多くの人がお参りする。

うどん県に改名

県のイメージアップ作戦は、インターネットにPR動画をアップすること、首都圏で発表会をすることときまった。動画は「瀬戸内海」「食」「アート」をアピールするために、県のナンバーワンブランドである「讃岐うどん」を活用し、ほんとうに香川県がうどん県と名をかえたと思わせる内容とすることになった。

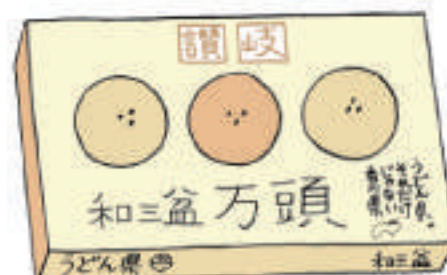
こうして2011年に、県出身の俳優たちをつかい、副知事が「うどん県に改名」という記者会見をする場面と、県内の観光地で県民が「うどん県？」とおどろく場面を組み合わせた動画を制作。あわせて東京で発表会をおこない、マスコミにとりあげられた。また、東京の地下鉄や空港ではポスターをつかって宣伝した。さらに、「うどん県」という宛名でも手紙がとどいたらいいのという声にこたえて、郵便事業株式会社におねがいしていくというあらたな動画もつくって配信した。



大きな反響

うどん県発表の動画は話題となり、公開したつぎの日には県のサーバへのアクセスができなくなるほどだった。うれしい悲鳴をあげながら、県はサーバの容量をあげた。

県民にも香川県をふるさとにする人たちにも評判がよかった。こうしてうどん県という呼び名は多くの人に知られるようになった。JR四国では、県庁所在地の高松の駅を「さぬき高松うどん駅」とよぶことにした。本州にいくフェリーの船体にうどん県のロゴマークがはいる、関西発高松行き的高速バスの行き先表示が「うどん県」になった。



おみやげの包装紙につかわれている商標



県章のバッジは大人気のため売り切れになったこともある

海外への商標登録

うどん県の商標登録は、中国と台湾でもおこなった。じつは、以前に「讃岐」が台湾で商標登録されたことから事件がおきていたのだ。

讃岐うどん打ちの修業をした日本人が、台湾で讃岐うどんの店をひらいた。ところが、地元の冷凍食品をあつかう化学メーカーから、看板につかわれている「讃岐」の文字をとるようにと注意をうけた。台湾でこの企業が「讃岐」の商標をとっていたのだ。その日本人は、いったんは「讃岐」の看板をさげた。けれども、「日本の地名を一企業が独占してつかうのはおかしい」と、店主は商標の無効審判をもうした。5年にわたる審判・訴訟のすえ、店主のうったえが完全にみとめられ、また「讃岐」の看板をだせるようになった。

「うどん県」を商標登録

動画やキャンペーンにより、「うどん県」ということばとロゴの知名度は高まった。すると、商標をつかいたいという声が多く企業のあがった。県は考えた。みんなにつかってほしいけれど、もし関係のない人がこれらの商標を登録してしまったら、つかっている企業が使用料をとられるなどの被害にあうだろう。そこで2012年、香川県は防御のために穀物の加工品、茶、菓子などや旅行にかかわる区分で「うどん県」を商標登録した。この商標は、県内の民間事業者なら、県の観光協会のサイトにある入力フォームに書きこんだうえで無料でダウンロードすることができる。ただし、デザインを加工しないなどの利用規約にしたがわなくてはならない。また、うどん県章や、うどん県観光課係長のキャラクターなどのイラストも入力のうえ無料でダウンロードできる。



うどん県観光課係長「うどん県」

それだけじゃない香川県

香川県にとって、うどん県を知ってもらうことは第一歩にすぎなかった。うどん県というインパクトのある商標で「香川県」という商品は知名度が大きくあがった。そこで、つぎは県が力をいれているアートについてさらに知ってもらおうと、2012年からはうどん県とともに、アート県という表現もつかって宣伝をしていった。

いまではすっかり定着した「うどん県」を有効につかいながら、県のPRはつづいている。



→「無効審判」第3巻32-33ページ